

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

香川県小豆島中央病院企業団 小豆島中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	13	-	ド透訓	救 臨 感 へ 災
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	17,850	非該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

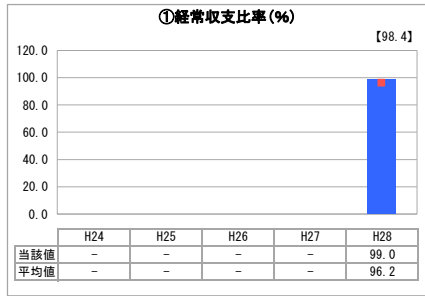
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
185	40	5
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	234
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
185	40	225

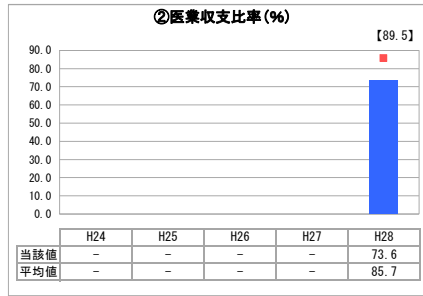
**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

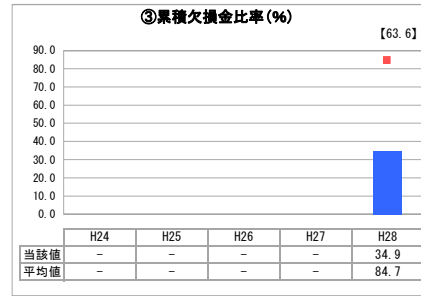
## 1. 経営の健全性・効率性



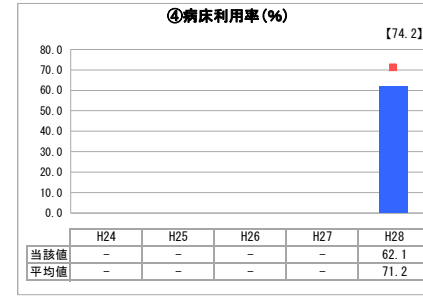
「経常損益」



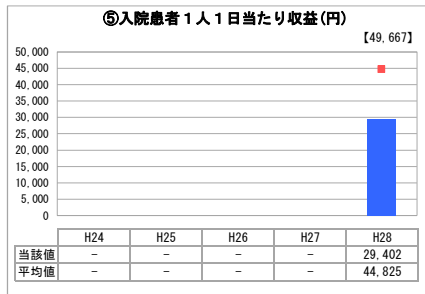
「医療損益」



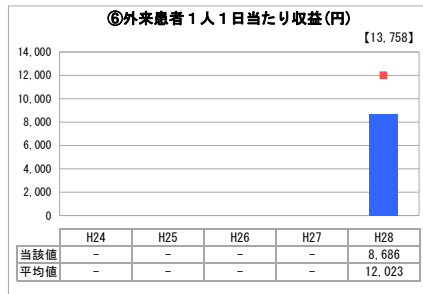
「累積欠損」



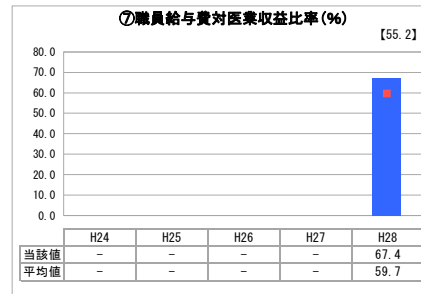
「施設の効率性」



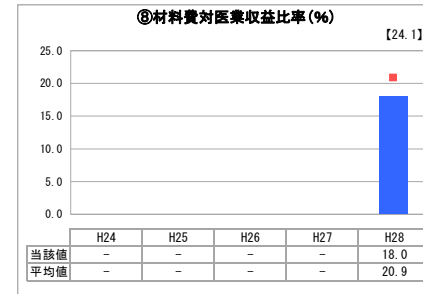
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

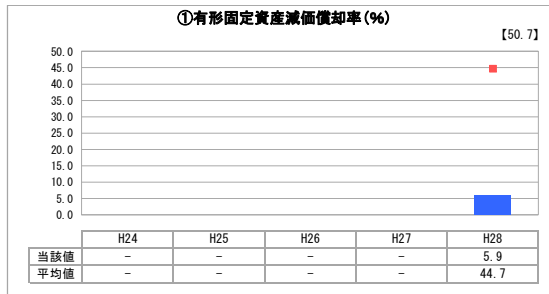


「費用の効率性①」

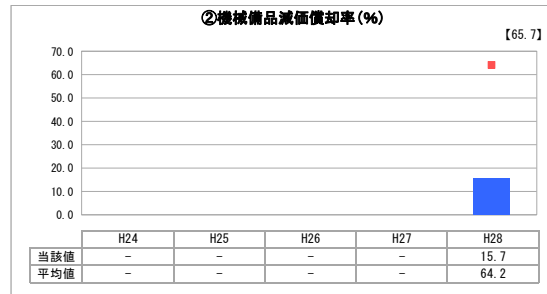


「費用の効率性②」

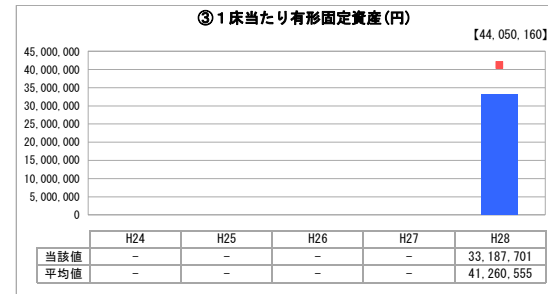
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「施設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

2つの公立病院が統合して開院した小豆島医療圏唯一の公立病院であり、離島かつ一定の人口規模を有することから、民間病院で提供されていない産科、小児科医療の他、人工透析、救急医療といった政策的医療を担うほか、万が一の災害時には医療の拠点として機能する役割がある。  
※平成28年度は開院初年度にあたる。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

開院初年度であり、統合に伴う患者の入院制限によって収益が減少し、その補てんに補助金や繰入金を充当することとなった。医療収支比率が73.6と極めて低く、経常収支比率は99.0と100近くになっているのはそのためである。収益面において、病床稼働率が平均より大幅に低く、収支悪化の最大の原因となっている。患者単価は入院外来ともに全国平均より低い。離島の患者特性もあるため、まずは統合前の旧病院との比較が必要となるが、ほぼ両病院の平均値がでているため、初年度では妥当な数値であると言える。費用面においては、職員給与費対医療収益比率の数字が高い。これは、離島での人材確保のために一定の給与水準を保つ必要があるということが原因の一つであるが、分母側の医療収益が想定より低いということが最も大きな原因であり、経営改善に向けた取り組みを早急に行う必要がある。材料費対医療収益比率は全国平均よりも低く比較的効率的な運用ができています。

### 2. 老朽化の状況について

開院初年度の病院であるため、減価償却率は低く、老朽化は見られないが、医療器械については統合前の病院から持ち込んだものもあり、耐用年数を経過しているものも多いため、それらについては数年の間に買い替えが必要であり計画的な更新を計画する必要がある。持込機器については、減価償却後の価格を帳簿価格としているため1床あたりの有形固定資産額が平均より抑えられている。

### 全体総括

2つの公立病院が統合されてきた新病院の開院初年度であり、開院後数か月は統合に伴う患者制限の影響が響き、収益は大幅に悪化した。そのため構成町である土庄町及び小豆島町からの繰入金に大幅に依存することとなったため、経営の健全性・効率性の指標の大部分が類似病院平均より悪化している。今後は島民の安心安全を守るため、地域の中核病院として一定水準の医療を継続的に提供できる体制を整えるためにも患者の受療動向などを分析したうえで中長期的な経営目標を策定し経営の健全化に取り組むこととしている。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。